

日本技術者教育認定機構
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20
(建築会館 4F)
電話 03-5439-5031
FAX 03-5439-5033
E-mail accreditation@jabee.org

自己点検書

(2. 自己点検結果編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2019年度～）
適用年度：2019年度

高等教育機関名

プログラム名

(希望認定種別名)

(希望認定分野名)

Program Title

審査分類：新規審査／認定継続審査／中間審査

注意：中間審査の場合、「自己点検結果」は中間審査項目についてのみ記載する

提出日 2019年 9月 13日

記入上の注意

- 白色の欄にのみ記入してください。着色のある欄には記入しないでください。
- 「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を高い水準で満たしている
 - ：認定基準の要求事項を満たしており、適合の度合いを高めるための取り組みを行っている
 - △：認定基準の要求事項を満たしているが、改善の余地がある
- 「基準への適合状況の説明」欄に、進行中の改善の取り組みがあれば、その内容も含めて説明を簡潔に記入してください。
- 「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「[C]：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善、変更
- 「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と整理番号又は Web ページの URL を記入してください。
- 添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
- なお、整理番号は、添付資料と実地審査閲覧資料が区別できるよう付してください（例：Txx と Jxx）。
- この欄に記載した資料に対応させて、添付資料編の表 5 及び表 6 の一覧表を作成してください。
- Web ページで公開されているものについては URL を記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明（進行中の改善の取り組みを含む）	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	学習・教育到達目標の設定と公開				
1.1	<p>【自立した技術者像の設定と公開・周知】</p> <p>プログラムは、育成しようとする自立した技術者像を公開し、プログラムに関わる教員及び学生に周知していること。この技術者像は、技術者に対する社会の要求や学生の要望に配慮の上、プログラムの伝統、資源、及び修了生の活躍が想定される分野等を考慮して定められていること。</p>	◎	<p>当プログラムにより育成しようとする技術者像は、創立以来の実学志向の建学理念に基づいており、大学・学部・学科のそれぞれのレベルにおいて、アドミッションポリシーとディプロマポリシーが定められている。</p> <p>学科のアドミッションポリシーとディプロマポリシーは、『社会科学をとり込み社会基盤システムの創造を担う学生を育む』を教育目標とし、学科が求める技術者像は、「社会基盤コース」と「社会システムデザインコース」の2コースにおいて定められている。なお、2019年度入学生からはコースを統合して廃止している。</p> <p>当学科は、2018年度は専任教員12名（教授9名、准教授3名）で12の研究室を、2019年度は専任教員16名（教授13名、准教授3名）で15の研究室を運営しており、設備として実験室・ゼミ室・測量実習室などを保有している。修了生は、さまざまなフィールド（公務員・民間発注者・建設会社・コンサルタントなど）に就職しており、そのいずれにも対応できるようなポリシーとなっている。</p> <p>それらアドミッションポリシーとディプロマポリシー、および学修・教育到達目標とカリキュラムの関連は、学科webにて広く告知されている。</p> <p>一方、2011年4月以降、年度初めに行われる新入生ガイダンスにおいて、学科の育成する技術者像が説明され、新入生全員に冊子「芝浦工業大学JABEEへの取り組み」と「土木工学科JABEE説明資料」が配布され、教育理念、学修・教育到達目標、教育方法などの説明が行われている。</p> <p>このプログラムの内容は、学科全教員で周知・確認し、さらに非常勤講師報告会を開催して非常勤講師にも周知している。</p> <p>土木は、社会インフラ整備および国民の安全・安心を守ることが重要であり、当プログラムは、社会基盤システムの創造が可能な技術者育成を目指している。業界からの求人数も非常に多い状況が続いている。卒業生、卒業生の就職先、父母、学生からの要望を十分に反映し、土木の広い分野に対応し、高い水準を持った技術者像となっている。</p>		<p>添付資料 1-1-1 学科規則</p> <p>添付資料 1-1-2 技術者像と反映させる仕組み</p> <p>添付資料 1-1-3 芝浦工業大学土木工学科の歴史</p> <p>添付資料 1-1-4 土木工学科教員変遷と計画</p> <p>添付資料 1-1-5 卒業要件と単位区分および専任担当区分</p> <p>添付資料 1-1-6 卒業生の進路の分析資料</p> <p>添付資料 1-1-7 土木工学科 JABEE における到達水準（評価基準）</p> <p>添付資料 1-1-8 在校生の土木工学に対する意識変化</p> <p>添付資料 1-1-9 土木工学科卒業生へのアンケート結果の評価</p> <p>添付資料 1-1-10 父母懇談会プログラムおよび実施報告</p> <p>添付資料 1-1-11 学生による教育評価アンケート集計結果</p> <p>添付資料 1-1-12 工学部教育点検システムと改善の流れ</p> <p>添付資料 1-1-13 JABEE 学科基本組織</p> <p>添付資料 1-1-14 土木工学科人事</p> <p>添付資料 1-1-15 新入生ガイダンス資料</p> <p>添付資料 1-1-16 土木工学科 JABEE 説明資料</p> <p>添付資料 1-1-17 非常勤講師報告会資料</p> <p>実地閲覧資料 学修の手引</p> <p>実地審査閲覧資料 1-1-1 芝浦工業大学 JABEE への取り組み</p> <p>大学のアドミッションポリシー</p> <p>http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/admission_policy/index.html</p> <p>ディプロマポリシー</p> <p>http://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/policy.html</p> <p>育成する人材像</p> <p>http://www.db.shibaura-it.ac.jp/education.html</p> <p>教育目標とカリキュラム</p> <p>http://www.db.shibaura-it.ac.jp/education.html</p> <p>授業アンケート web（教員データベースから）</p> <p>http://resea.shibaura-it.ac.jp/</p> <p>土木工学科 H.P. http://www.db.shibaura-it.ac.jp/</p>

<p>1.2</p>	<p>【学習・教育到達目標の設定と公開・周知】</p> <p>プログラムは、プログラム修了生全員がプログラム修了時に確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標を定め、公開し、かつ、プログラムに関わる教員及び学生に周知していること。この学習・教育到達目標は、自立した技術者像(認定基準 1.1)への標(しるべ)となっており、下記の知識・能力観点(a)～(i)を水準を含めて具体化したものを含み、かつ、これら知識・能力観点に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。</p> <p>(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養</p> <p>(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解</p> <p>(c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力</p> <p>(d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力</p> <p>(e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力</p> <p>(f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力</p> <p>(g) 自主的、継続的に学習する能力</p> <p>(h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力</p> <p>(i) チームで仕事をするための能力</p>	<p>◎ プログラムの育成しようとする技術者像を達成する両ポリシーに照らし、身につけておくべき知識・能力から、学修・教育到達目標を表1に示すように設定している。</p> <p>設定した学修・教育到達目標は2011年4月1日より学科webに掲示し、学内外に公開した。また、工学部教育プログラム自己点検委員会は「芝浦工業大学 JABEE への取り組み」という冊子を作成し、学内関係教職員や学生に配布されている。2011年4月以降は、年度初めに行われる新入生ガイダンスにおいて、全員に冊子「芝浦工業大学 JABEE への取り組み」と「土木工学科 JABEE 説明資料」を配布し説明を行っている。年度終了時には必要に応じて見直しを行い学科全教員に周知している。非常勤講師には年度初めに関連資料を送り周知するとともに、毎年度末に開催する報告会で説明を行っている。専任教員には、教員ハンドブックにて毎年周知をしている。</p> <p>それぞれの知識・能力別には、下記に示す通りである。</p> <p>(a)学修・教育到達目標 A (A-1,A-2) の知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的には「環境の科学」などで育成する。評価基準：技術者として、国内外において、人類のさまざまな文化、社会と自然に関する知識があり、それらの特徴を理解できるとともに、それに基づいて、自らの行動を適切に理解し、状況を整理・分析できる。</p> <p>(b)学修・教育到達目標 B,A-1 の知識・能力の育成により達成する。具体的には添付資料表2と添付資料に示すように、主体的には「技術者の倫理」で育成する。評価基準：技術者として、当該分野の技術が公共の福祉に与える影響・当該分野の技術が生み出す環境保全と社会の持続ある発展への関与・技術者が持つべき倫理と責任に対し、理解するとともに、上記の理解に基づいて、当該分野の技術者として実務を行う際に必要となる最低限の知財・法律・企業活動の実務に関する知識を有し、社会の実相を反映したモデル問題について状況を分析でき、自らの行動を認識できる。</p> <p>(c)学修・教育到達目標 C,A-1,D,F の知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的にはCでは「数理基底科目数学(必須)」など、Dでは「流れの力学」などで育成する。評価基準：当該分野に必要な数学及び自然科学に関する知識を有し、上記の知識を組み合わせることも含め、技術者として当該分野の問題解決のために上記の知識を応用でき、その問題を分析できる。</p> <p>(d)学修・教育到達目標 C,D,E,F,G,H の知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的には、Cでは「土木解析学」など、Dでは「環境の工学」など、Eでは「土木実験 1,2」、Fでは「土木設計演習 1,2」、Gでは「水工学」など、Hでは「土木工学セミナー」で育成する。評価基準：当該分野において必要とされる専門的知識を有し、これらの知識を組み合わせ、当該分野の問題解決に必要なハードウェア・ソフトウェアのツールを利用できる能力を有し、これらを利用して、技術者として当該分野の問題を分析できる。</p> <p>(e)学修・教育到達目標 F,G,H の知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的には基礎的レベルである「土木情報処理」などで育成し、よりレベルの高い創造レベルでは「卒業研究」によることにしている。評価基準：社会の実相を反映したモデル問題に対して、技術者としての問題解決を行うために、解決すべき問題を認識し、公共の福祉・環境保全・経済性などの考慮すべき制約条件を特定し、解決すべき課題を論理的に特定・整理・分析し、課題の解決に必要な数学・自然科学・該当する分野の科学技術に関する系統的知識を適用することができる。さらに種々の制約条件を考慮して、解決に向けた具体的な方針を立案し、複数の解の中から最適解を選定し、立案した方針に従って、モデル問題の創造的解決を図ることができる。</p> <p>(f)内容は学修・教育到達目標 I の知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的には「英語基底科目」「導入ゼミナール」「土木ゼミナール」「卒業研究」で育成する。評価基準：自らの意見を論理的に整理し、関連する情報と共に他者に伝え、また他者の発信した情報や意見を理解できる。さらに英語等の外国語でやり取りができ、</p>	<p>設問に回答するための修正</p>	<p>表1 学修・教育到達目標と基準 1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学修・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 表3 学修・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明添付資料 1-1-7 土木工学科 JABEE における到達水準(評価基準) 添付資料 1-1-15 新入生ガイダンス資料 添付資料 1-1-16 土木工学科 JABEE 説明資料 添付資料 1-1-17 非常勤講師報告会資料 添付資料 1-2-1 学修・教育到達目標の達成と基準 1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料 1-2-2 学修・教育到達目標対応表(共通科目)土木工学科 添付資料 1-2-3 学修・教育到達目標と科目・履修条件の関係 添付資料 1-2-4 能力と科目・履修条件の関係 添付資料 2-1-1 卒業研究評価表_学修・教育到達目標と行動特性 添付資料 教員ハンドブック 2019 年度 実地審査閲覧資料 1-1-1 芝浦工業大学 JABEE への取り組み 実地審査閲覧資料 1-1-2 土木工学科 学修・教育到達目標配布カード(教員・学生用) 実地審査閲覧資料 1-2-1 成績評価方法 土木工学科 H.P. http://www.db.shibaura-it.ac.jp/</p>
------------	--	--	---------------------	--

		<p>社会の実相を反映したモデル問題に対して業務遂行できる。</p> <p>(g)学修・教育到達目標 G,J の知識・能力の育成により達成する。具体的には表 2 と添付資料に示すように、主体的には「卒業研究」などで育成する。評価基準：将来にわたり技術者として活躍していくための継続的研鑽の必要性を理解し、必要な情報や知識を獲得する方法の知識があり、意欲的に実行できる。</p> <p>(h)学修・教育到達目標 F,J,K の知識・能力の育成により達成する。具体的には表 2 と添付資料に示すように、主体的には「卒業研究」などで育成する。評価基準：社会の実相を反映したモデル問題に対して、時間、費用を含む与えられた制約下で計画的に仕事を進め、計画の進捗を分析し、必要に応じて計画を修正でき、モデル問題の目標を達成できる。</p> <p>(i)学修・教育到達目標 E,F, I の知識・能力の育成により達成する。具体的には表 2 と添付資料に示すように、主体的には「土木実験 1,2」などで育成する。評価基準：社会の実相を反映したモデル問題に対して、他者と協働する際に、自己のなすべき行動を的確に判断・実行し、他者と協働する際に、他者のとるべき行動を判断し、他者に働きかけることができる。</p> <p>学修・教育到達目標 A～K に授業科目が対応しており、学科として到達水準を設定した。各科目の単位取得については表 2 およびシラバスに明記された達成目標および評価方法と基準に従って評価した結果、合格であれば単位が与えられる。また、各学修・教育到達目標に対応する科目群には卒業までに必ず修得する必要がある科目（必修・必須科目あるいは選択必修科目（社会基盤コースでは実質必修））が含まれており、最低限必要な水準が達成できる。</p>		
2	教育手段			
2.1	<p>【カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程、科目の設計と開示】</p> <p>プログラムは、公開されている教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づく教育課程(カリキュラム)において、各学習・教育到達目標に関する達成度評価の方法及び基準、ならびに、科目ごとの学習・教育到達目標との対応、学習・教育内容、到達目標、評価方法、及び評価基準、を定め、授業計画書(シラバス)等によりプログラムに関わる教員及び学生に開示していること。なお、教育内容に関する必須事項を、必要に応じて個別基準で定める。</p>	<p>◎ 「教育課程編成・実施の内容の定めかた」については次のとおりである。まず、表 3 および表 4 に示すように、技術者に必要な能力の養成を目的とし、学修・教育到達目標を達成するために必要な授業科目を配置している。科目を力学・防災・計画・情報・環境系に分類し、低学年では主に土木工学の基礎的素養の習得を、高学年では講義や実験、演習を通し社会の実課題に関わる技術、知識の習得を目指して体系的に科目を配置し、各自の進路・方向性を意識できるカリキュラム設計としている。教員は次年度のカリキュラムの検討を 6 月～12 月にかけて学科会議・JABEE 会議で議論し、相互理解を図っている。また、数理基礎科目や言語科目、情報科目、人文社会系教養科目、体育健康科目の分野別要件も必修化している。学修・教育到達目標に対するカリキュラムにおける各科目との対応関係は、表 1～表 4 および添付資料で明瞭に示している。</p> <p>「授業計画書(シラバス)等による教員・学生への情報開示」は次のとおりである。まず、1 年生には、新入生オリエンテーションにおいて「学修の手引」および「土木工学科 JABEE 説明資料」を配布している。2～4 年生には、年度開始時の学科ガイダンスにおいて「土木工学科 JABEE 説明資料」を配布し、カリキュラム構成等を詳細に解説している。次に、常にカリキュラムを学生が確認できるよう、土木工学科 Web ページにカリキュラムポリシー等の情報を掲載するとともに、各科目の開講状況を「時間割検索システム」および「シラバス検索システム」で開示している。各科目のシラバスには、授業の概要、達成目標、各回の授業計画、授業時間外課題、評価方法と基準、教科書・参考書、履修登録前の準備、学修・教育到達目標との対応、オフィスアワー、ならびに、質問・相談の方法を記載している。</p> <p>また、カリキュラムは「学修の手引」として新入生に配布している。また大学 Web ページでも公開している。</p>	<p>JABEE プログラムの観点ではカリキュラムについては大きな影響および変更はないが、学科の活動においては前回受審時からの変更が 3 点ある。1 つめは教員数の増加である。2019 年度から、学内の共通・教職科目教員(一般教養・教職系教員) 5 名が土木工学科に配置されている。当該教員は「卒業研究」以外の専門系必修科目を分担していないため、JABEE プログラムの観点では、「卒業研究」以外の科目群については、カリキュラムに変更なしとみなせる。2 つめは「卒業研究(4 単位)」の「卒業研究 1(4 単位)」・「卒業研究 2(8 単位)」へ分割および単位数変更、ならびに、分担教員数の増員である。「卒業研究」と「卒業研究 1」・「卒業研究 2」の評価方法に変更はない。さらに、「卒業研究」以外においては、卒業に必要な必修科目数の変更はない。そのため、「卒業研究」についても JABEE プログラムの観点ではカリキュラムに変更なしとみなせる。3 つめは土木工学科の社会システムデザインコースの廃止である。土木工学科は、社会基盤コース(JABEE コース)と社会システムデザインコース(非 JABEE コース)で構成されていたが、2019 年度より社会システムデザインコース(非 JABEE コース)を廃止している。これに伴い、社会基盤コース(JABEE コース)における選択必修科目の区分名称を必修科目へ変更している。選択必修科目という区分名称は、社会基盤コース(JABEE コース)のカリキュラム上では、実質的に必修科目である。そのため、選択必修科目から必修科目への区分名称については、JABEE プログラムの観点ではカリキュラムに変更なしとみなせる。</p>	<p>表 1 学修・教育到達目標と基準 1(2)の(a)～(i)との対応 表 2 学修・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 表 3 学修・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明 表 4 学修・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ 添付資料 1-1-5 卒業要件と単位区分および専任担当区分 添付資料 1-1-7 土木工学科 JABEE における到達水準(評価基準) 添付資料 1-1-15 新入生ガイダンス資料 添付資料 1-1-16 土木工学科 JABEE 説明資料 添付資料 1-2-1 学修・教育到達目標の達成と基準 1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料 1-2-2 学修・教育到達目標対応表(共通科目)土木工学科 添付資料 1-2-3 学修・教育到達目標と科目・履修条件の関係 添付資料 1-2-4 能力と科目・履修条件の関係 添付資料 2-1-1 卒業研究評価表_学修・教育到達目標と行動特性 添付資料 2-1-2 自然科学及び科学技術に関する割合 添付資料 2-1-3 卒業研究の実施と評価に関する規程 添付資料 2-1-4 外部資格試験や他大学の同様な科目に対する本学科における各科目の内容とレベルの比較 添付資料 2-1-5 外部資格試験や他大学の同様な科目に対する本学科における各科目の内容とレベルの比較 添付資料 表 2.表 3.表 4 実地審査閲覧資料 2-1-1 学修の手引 実地審査閲覧資料 2-1-2 工学部授業時間割表 時間割検索システム http://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/ 土木工学科 Web ページ. http://www.db.shibaura-it.ac.jp/ web 版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1</p>

2.2	<p>【シラバスに基づく教育の実施と主体的な学習の促進】</p> <p>プログラムは、シラバス等に基づいて教育を実施し、カリキュラムを運営していること。カリキュラムの運営にあたり、プログラムは、履修生に対して学習・教育到達目標に対する自身の達成度を継続的に点検・反映することを含む、主体的な学習を促す取り組みを実施していること。</p>	<p>◎</p> <p>各教員は担当科目のシラバスと対応を確認しながら適切な講義の実施による教育に努めている。また、講義の事実・内容を記録し、休講した際は必ず補講や措置を行うことでシラバスに従った教育を実施するようにしている。当該年度の休講と補講については、大学 web にある休講情報、補講情報の検索システムにより公開している。卒業研究については、その実施と評価に関する規程を作成し、概要・本文の提出・発表の実施を確認し、さらに従事時間数を確認した上で、評価を行っている。</p> <p>学生の自己学修時間を確保するため、半期 24 単位の履修を原則として指導を行っている。また、シラバスには、(1)予習・復習等の授業時間外課題の内容と必要学修時間の明記、(2)実習や実験・演習科目などにおける提出課題の明記を行っている。この他、PC 教室の利用時間への配慮、図書館は試験期間中及び日曜日も開放、および自習室・ゼミ室・就職資料室・測量準備室の設置を行って、学生の意欲を満足させるための設備を充実させている。また、学修のポートフォリオを確認できるシステムが構築された。これにより、学生は PC やスマートフォンから各自の単位取得履歴、GPA 取得履歴、学科順位推移、TOEIC スコア、出欠状況などが確認でき、自己点検、啓発ができる環境が整えられた。土木工学科でもクラス担任制度を導入し、個別対応を実施している。</p> <p>成績不振者に対してはクラス担任が個別面談を行い、学修・履修指導を行っている。また S*gsot のシステムから、通常の成績とは別に作成した学修・教育到達目標の達成度（JABEE 達成表）を確認できる。</p> <p>大学組織として、教育イノベーション推進センター、キャリアサポート課、学術情報センターが設置され学修支援を実施している。</p>	<p>学修のポートフォリオを確認できるシステムが追加された。各科目のシラバスに授業時間外課題（予習および復習を含む）が追記された。</p>	<p>添付資料 2-1-3 卒業研究の実施と評価に関する規程 添付資料 2-2-1 卒業研究従事時間数の調査 添付資料 工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表 添付資料 学修指導マニュアル 添付資料 S*gsot 画面 JABEE 達成表 実地審査閲覧資料 2-2-1 授業実施記録 ゼミ室予約システム： http://www.db.shibaura-it.ac.jp/ S*gsot Portfolio： http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/pf.html キャンパスライフ： http://www.shibaura-it.ac.jp/campuslife/ 教育イノベーション推進センター： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/index.html キャリアサポート課： http://www.shibaura-it.ac.jp/career_support/index.html 学術情報センター： http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ 図書館： http://lib.shibaura-it.ac.jp/ web 版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ "</p>
-----	--	---	---	---

<p>2.3</p>	<p>【教員団、教育支援体制の整備と教育の実施】</p> <p>プログラムは、上記 2.1 項、2.2 項で定めたカリキュラムに基づく教育を適切に実施するための教員団及び教育支援体制を整備していること。この教育支援体制には、科目間の連携を図ってカリキュラムに基づく教育を円滑に実施する仕組み、及び、教員の教育に関する活動を評価した上で質的向上を図る仕組みを含むこと。加えて、プログラムは関係する教員にその体制を開示していること。なお、教員団及び教育支援体制に関する勘案事項を必要に応じて個別基準で定める。</p>	<p>◎</p> <p>2018 年度は専任の教授 9 名、准教授 3 名であり、全員博士の学位を保有し、また大学以外の研究所出身者が 8 名おり、基礎教育と応用研究を教授できる。専任教員は 5 年ごとの再審査制度が導入されている。非常勤講師は、通年 3 名、前期 9 名、後期 8 名であり、TA と教育的アルバイトも配置し、補佐体制は十分である。教育支援体制として、クラス担任制をベースに、①学科主任を核とした執行体制と JABEE 組織、②研究室や実験室など設備、③基礎学力強化への支援、④特別講師の招聘などを展開している。学科内においては、教員間ネットワークを組織し、(1)土木計画系 (2)土木環境系・土木情報系 (3) 水工系 (4) 地盤工学系 (5) 防災系 (6) 構造・材料系の 6 つの分科会によりカリキュラムの検討や教育効果向上の議論をする。また、すべての分科会を集約して JABEE 会議で議論する。一方、工学部においては、教授会、主任会議、教務委員会、教育プログラム自己点検委員会があり、学科から少なくとも 1 名委員を出して、連携を行っている。工学部におけるネットワークはそれぞれ毎月 1 回ほど(教育プログラム自己点検委員会は年 2 回) のペースで開催されている。学科内における教員間ネットワークにおいてカリキュラム変更に関する議論や教育効果向上のための施策の議論を実施している。また学生の履修状況や授業出席状況も学内システムにより参照できる。全学として、FD・SD 改革推進委員会があり、学内外の講師を招いて講演会を実施している。工学部では、工学教育プログラムの検証と開発を行うと共に、授業の改善と教育上の問題点の探索のため、全科目に対し学生による授業アンケートを実施している。学科では、JABEE 会議で教育方法や設備改善などの FD 活動の提案と実施を行っている。FD ニュースレターが発行され、教授会での配布と大学 web への掲載をしている。授業アンケートは、集計結果に担当教員のコメントを付した内容を、大学 web を利用して学内に限って開示している。学科では、教育改善委員会により学科内における活動内容を、学科全教員に電子メールで配信し、随時学科会議および JABEE 会議にて報告している。年度初めには全学 FD・SD 講演会が開催され、同会では本学教育賞の表彰も行われている。授業アンケートは授業改善だけでなく、カリキュラムの傾向把握や改善のための利用となるように、種々検討している。また、私立大学連盟主催の FD 研修会への参加や教育賞への応募を行っている。さらに、教員に対し、授業ハンドブック、学修指導の手引を配布し、教職員行動規範を制定し、教員の指導と倫理規程を明確に示している。教員個人が、教育活動、研究活動、大学運営、社会貢献について、年度始めに達成目標設定と活動計画作成を行い、年度末に達成度および改善点の評価で構成された自己評価を実施している。教員データベースや業績システムには詳細なデータを記入しており、教員資格審査は 5 年ごとに再審査を受けなければならない。再審査項目は①教育業績②研究業績③大学運営学会・社会活動などである。優秀な教育実績を挙げ、学生に大きな刺激を与えた教員に対し、優秀教育教員として顕彰している。受賞者は、全学 FD・SD 講演会にて表彰と授業内容のプレゼンテーションを行い、教員相互の教育に役立てている。学生による授業評価、教員による相互評価卒業生による評価などを取り入れる検討をしている。教育・研究等業績評価の実施状況や教育・研究活動、大学運営などの各種情報は、大学 WEB 教員データベースで公表されている。また、教員資格の職能要件に基づく再審査および昇格に関わる審査の各結果は、学科主任を通して本人に連絡される。大学 web 上に各科目の学生による授業アンケート結果を公表し、教員コメント欄を設けて学生の閲覧とともに、授業改善に役立てている。また、研究推進室による競争的資金、共同研究、知財、コンプライアンス等に関する説明会が開催されている。</p>		<p>添付資料 教員資格審査規程</p> <p>添付資料 工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表</p> <p>添付資料 芝浦工業大学ティーチング・アシスタント規程</p> <p>添付資料 芝浦工業大学スチューデント・アシスタント規程</p> <p>添付資料 大学組織図"</p> <p>添付資料 工学部教授会開催通知</p> <p>添付資料 工学部学群・学科主任、科目代表者会議開催通知</p> <p>添付資料 工学部 JABEE 推進委員会議事録</p> <p>工学部教育プログラム自己点検委員会議事録</p> <p>添付資料 工学部教育開発本部議事録</p> <p>添付資料 教務委員会議事録開催通知"</p> <p>添付資料 2018 年度 FD・SD 講演会および 2017 年度優秀教育教員の顕彰について</p> <p>添付資料 コンプライアンス等に関する説明会開催について(兼競争的資金執行説明会)</p> <p>添付資料 工学部教育開発本部規程</p> <p>添付資料 芝浦工業大学教員教育・研究等業績評価規程</p> <p>添付資料 工学部教員資格審査委員会審査方法内規</p> <p>添付資料 梅村魁記念賞規程</p> <p>添付資料 学校法人芝浦工業大学大学顕彰規程</p> <p>添付資料 梅村魁記念賞候補者の推薦について"</p> <p>添付資料 教育・研究等業績評価の実施および自己評価の入力について</p> <p>添付資料 教育・研究等業績評価シート(目標計画書・自己評価書)</p> <p>添付資料 梅村魁記念賞 受賞者一覧</p> <p>工学部学習サポート室 Web ページ</p> <p>http://www.shibaura-it.ac.jp/education/organization/support/engineering_support.html</p> <p>教育イノベーション推進センターWeb ページ</p> <p>http://www.shibaura-it.ac.jp/education/index.html</p> <p>工学部教育開発本部 Web ページ</p> <p>http://www.shibaurait.ac.jp/education/faculty_development/educational_development_on_engineering/aim.html</p> <p>男女共同参画推進室</p> <p>http://plus.shibaura-it.ac.jp/diversity/about/greeting"</p> <p>芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業</p> <p>http://www.shibaura-it.ac.jp/global/summary/ghrd.htmlCentennial Centennial SIT Action</p> <p>http://www.shibaura-it.ac.jp/about/centennial_sit_action/index.html</p> <p>教員データベース</p> <p>http://resea.shibaura-it.ac.jp/</p> <p>"</p>
------------	--	---	--	--

2.4	<p>【アドミッション・ポリシーとそれに基づく学生の受け入れ】</p> <p>プログラムは、カリキュラムに基づく教育に必要な資質を持った学生をプログラムに受け入れるために定めた受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を公開し、かつ、同方針に基づいて学生を受け入れていること。</p>	<p>◎ 学科のアドミッションポリシーを開示し、その理念を理解した上での出願を期待している。</p> <p>入試関連の主な年度計画は次のとおりである。①各学科から入試についてのアンケート・要望：4月、②基本方針・一般入試提案：5月、③指定高校および併設高校の推薦入試提案：6、7月、④外国人・帰国生徒特別入試：1月、⑤一般入試（前期日程・センター試験利用・後期日程）：1～2月、⑥学士・編入試験：3月、⑦合否判定会議による合格者決定</p> <p>なお、入学選抜については次の6とおりの方法にて学内外へ開示している。</p> <p>①文部科学省への報告（→これにより文部科学省より全国主要機関への開示をしている）、②入試ガイド（要項概要）の配布、③入試要項の配布、④大学 web への掲載、⑤主要受験雑誌・主要新聞への掲載、⑥指定校等への直接通知等。またオープンキャンパスでは参加者に入学情報を提供している。さらに、具体的な選抜方法は次のようにしている。①前期一般（3教科）、②全学統一般（3教科）、③後期一般（3教科）、④センター利用方式（4教科）、⑤指定校推薦、⑥併設高校推薦、⑦外国人・帰国生徒特別（若干名）。学科の1年～4年次生の定員数の1.10倍以内になるよう、毎年度入学生数を点検している。</p> <p>「芝浦工業大学編入学規程」に基づいて編入学試験（数学、理科「物理・化学いずれかを選択」、英語の筆記試験および面接）を実施し、合格者に対し編入が許可される。編入学生の単位振替認定に関しては、学外単位等認定制度規程に基づき単位の評価・認定を行う。このとき学科において、編入元の学科が JABEE に基づいているか点検をしたうえで単位認定を行う。大学 web に掲載されている「編入学試験」の案内に「募集学科・試験内容」「出願資格」「入試日程」が開示されている。社会基盤コースへの編入学に関する事項については、学科 web に掲載し、編入学希望者へは添付資料 2-4-9 の通知を行う。将来的には、編入学生の JABEE コース履修に関する詳細を、編入学試験要項に記載していく方針である。</p>	<p>編入試験の項目を追記 2017年度データ更新</p>	<p>添付資料 1-1-16 土木工学科 JABEE 説明資料 添付資料 1-1-8 在校生の土木工学に対する意識変化 添付資料 2-4-1 合否判定会議内規 添付資料 2-4-2 入試概要 添付資料 2-4-3 土木工学科入学試験科目など詳細内容 添付資料 2-4-4 土木工学科志願者数変遷と分析" 添付資料 2-4-5 芝浦工業大学編入学規程 添付資料 2-4-6 学外単位等認定制度規程 添付資料 2-4-7 転科・転部、編入学、学士編入学およびこれに伴う単位認定 添付資料 2-4-8 編入学生の推移 添付資料 第 1602 回 工学部学群・学科主任、科目代表会議資料（2）2017 年度入試実施方針 添付資料 推薦入試験について該当高校に開示根拠資料" 添付資料 転部転科募集要項 添付資料 芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 添付資料 芝浦工業大学編入学規程 添付資料 芝浦工業大学転部及び転科規程 添付資料 芝浦工業大学転部及び転科規程運営内規" 実地審査閲覧資料 1-1-1 芝浦工業大学 JABEE への取り組み 実地審査閲覧資料 2-1-1 学修の手引 入試情報 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/ 学科の web サイト http://www.db.shibaura-it.ac.jp/jabee.html 大学としての編入学出願資格 http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/summary/index.html 大学 Web ページ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/policy.html 工学部 Web ページ http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/index.html 一般入学試験要項 http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/index.html 編入学試験 Web ページ http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/special_exam/transfer_exam.html 学士入学試験 Web ページ http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/special_exam/bachelor_exam.html</p>
-----	---	--	-----------------------------------	--

2.5	<p>【教育環境及び学習支援環境の運用と開示】</p> <p>プログラム又はプログラムが所属する高等教育機関は、教育の実施及び履修生の学習支援のために必要な施設、設備、体制を保有し、それを維持・運用・更新するために必要な取り組みを行っていること。その取り組みをプログラムに関わる教員、教育支援体制の構成員、及び履修生に開示していること。</p>	<p>◎ 本学のキャンパスは、①豊洲キャンパス、②大宮キャンパス、③芝浦キャンパスである。校地面積は約 300,400 m²、校舎面積は 78,212.2 m²であり、いずれも大学設置基準を超えている。図書館、パソコン室や学術情報センターなどの情報関連施設も充実し、食堂などの学生厚生施設も完備している。学科管理としては、2019 年度は 14 研究室・4 実験室・ゼミ室・自習室・就職資料室・会議室・測量実習室および準備室がある。教員全員のオフィスワーカーの設定を行うとともに、学年担任による学生面談について学科会議で議論し、学科規則に定めている。また大学による支援の仕組みとして、学修サポート室・総合的な学生サービスを展開する学生センター・専門カウンセラーが適切なアドバイスを行う学生相談室の設置を行っている。また、学生による全科目の授業アンケート、ハラスメント防止委員会の設置・外部機関を利用する電話カウンセリングによってサポートしている。学生支援に関しては、「工学部クラス担任一覧表」などを学生に明示し、「SIT Campus Guide」および大学 web に開示している。この他、「学生相談室」については、教職員用・学生用に分けてリーフレット「学生相談室のご案内」を全員に配付し、ハラスメントについてもパンフレットを配付し、大学 web に開示している。授業アンケート結果は、学生を含めた学部構成員全般に大学 web を利用して公開している。</p>	<p>基底科目の廃止、土木分野の入門レベルをカバーする共通科目（化学）の新規設置</p>	<p>添付資料 1-1-1 学科規則 添付資料 1-1-2 技術者像と反映させる仕組み 添付資料 1-1-15 新入生ガイダンス資料 添付資料 2-5-5 教育環境に関する学生支援の仕組み 添付資料 2-5-6 学修に関する学生支援の仕組みの存在 添付資料 2-5-7 ICUS2007 教育研究連携協定 添付資料 健康相談室 ・メンタルヘルス電話カウンセリングデータ ・健康相談報告書 添付資料 学修指導マニュアル 添付資料 TA 規程芝浦工業大学ティーチング・アシスタント規程 キャンパス・施設紹介： https://www.shibaura-it.ac.jp/educational_foundation/facility/toyosu_campus.html 学生相談・保健室： https://www.shibaura-it.ac.jp/student/campus_life/mental_and_health_support.html 大学基礎データ https://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/sqipbe000000rwq1-att/sqipbe000000rwwz.pdf 大学データ集 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/sqipbe000000fj8o-att/sqipbe000000fjfl.pdf 国際学生寮、東大宮学生寮 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/facility/dormitories.html グローバルラーニングコモンズ http://www.shibaura-it.ac.jp/news/2016/40160049.html http://www.shibaura-it.ac.jp/news/2017/40170040.html CAMPUS GUIDE 2016： http://www.shibaura-it.ac.jp/book/campus_guide_2016/ 2017： http://www.shibaura-it.ac.jp/book/campus_guide_2017/ 工学部学習サポート室 Web ページ： http://www.shibaurait.ac.jp/education/organization/support/engineering_support.html 図書館 Web ページ： http://lib.shibaura-it.ac.jp/ 学術情報センター： http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 奨学金： CAMPUS GUIDE 2017 p30～33 http://www.shibaura-it.ac.jp/book/campus_guide_2017/</p>
3	学習・教育到達目標の達成			

3.1	<p>【学習・教育到達目標の達成】</p> <p>プログラムは、各科目の到達目標に対する達成度をシラバス等に記載の評価方法と評価基準で評価し、かつ、全修了生が修了時点ですべての学習・教育到達目標を達成したことを点検・確認していること。この達成度評価には、他のプログラム(他の学科や他の高等教育機関)で履修生が修得した単位についての認定も含む。</p>	<p>◎</p> <p>学修・教育到達目標に対する主たる科目の達成度評価の実施状況を根拠資料として示す。シラバスに定められた評価方法と基準に基づき、科目ごとの到達目標に対する達成度を示している。総合的な達成度の評価として国際的な評価法である GPA 並びに達成表を用いている。シラバスには、科目ごとの達成目標、評価方法と評価基準、対応する学習・教育到達目標が明記されており、それに従って評価されている。全てのシラバスは大学 Web ページの「芝浦工業大学シラバス検索システム」から参照することができる。</p> <p>学修・教育到達目標ごとに設定された科目を履修することにより、各年度・各人ごとに JABEE 達成表を作成し、学生はこれを S★gsot により個々に確認・点検できる。また学生の個人面談では成績通知書と JABEE 達成表を持参の上実施している。達成度を総合的に評価する方法と評価基準に関して、2015 年度学科規則に明文化すると共に、学科 web にも掲載し、安定的に評価が行えるようになった。</p> <p>卒業研究に関しては、概要を工学部土木工学科卒業研究概要集として毎年刊行し公表しており、その成績評価についてはルーブリックを用いた評価を実施している。</p> <p>他のプログラムでの履修生の単位については、「工学部学外単位等認定制度規程」に基づき、「他大学等教育機関」で単位を取得した場合、それが本学における教育上有益と認められるときには、30 単位を限度に本学の単位として認定される。また本学入学前に「他大学等教育機関」で取得した単位は、在籍中に取得した単位とは別に 30 単位を限度に認定を受けることができる。上記規程に加え、学外他学部、他学科、編入前に取得した単位の認定方法を学科で定めている。単位認定は工学部教務委員会が行っている。共通科目については共通科目群へ、専門科目群については専門学科へ認定案の作成を依頼し、教務委員会が最終単位認定を行った後に教授会で承認を得る。</p> <p>また、TOEIC など英語検定試験成績による学外単位認定の実績もあり、教務委員会で審議の後、教授会に報告されている。</p>	<p>科目の追加・削除に伴い、添付資料 1-2-1 の変更を実施</p> <p>JABEE 達成表の更新</p> <p>シラバスに「達成目標に対する評価対応と割合」の項目が追加され、到達目標に対する評価方法がより明確となった。</p> <p>2016 年度より、学外単位は 30 単位から 60 単位（大学設置基準で規定されている単位）を上限として本学の単位として認定することになった。</p>	<p>表 2 学修・教育到達目標とその評価方法及び評価基準</p> <p>添付資料 1-1-5 卒業要件と単位区分および専任担当区分</p> <p>添付資料 1-2-1 学修・教育到達目標の達成と基準 1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置</p> <p>添付資料 1-2-3 学修・教育到達目標と科目・履修条件の関係</p> <p>添付資料 1-2-4 能力と科目・履修条件の関係</p> <p>添付資料 2-1-1 卒業研究評価表 学修・教育到達目標と行動特性</p> <p>添付資料 2-4-7 転科・転部、編入学、学士編入学およびこれに伴う単位認定</p> <p>添付資料 2-2-3 JABEE 達成表例</p> <p>添付資料 2-2-5 クラス担当業務</p> <p>添付資料 3-1-1 成績通知書</p> <p>添付資料 3-2-1 工学部学外単位等認定制度規程</p> <p>添付資料 3-2-2 英語検定試験成績による単位付与</p> <p>添付資料 3-2-3 編入学生単位認定状況</p> <p>添付資料 芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程</p> <p>添付資料 編入学試験要項</p> <p>添付資料 マレーシア留学生編入学試験要項"</p> <p>添付資料 認定案の作成依頼資料学外単位認定について（依頼）</p> <p>添付資料 教授会資料工学部教務委員会報告</p> <p>実地審査閲覧資料 3-1-1 主要科目のシラバス</p> <p>実地審査閲覧資料 3-1-2 主要科目の成績評価方法</p> <p>実地審査閲覧資料 3-1-3 主要科目の成績原簿および関連記録（教科書、試験問題、答案・レポート）</p> <p>実地審査閲覧資料 3-1-4 工学部土木工学科卒業研究概要集</p> <p>芝浦工業大学シラバス検索システム</p> <p>http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/</p> <p>学修の手引： http://syllabus.sic.shibaurait.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1</p>
3.2	<p>【知識・能力観点から見た修了生の到達度点検】</p> <p>プログラムは、学習・教育到達目標を達成した全修了生が学習・教育到達目標に含めた知識・能力観点(a)～(i)の内容を獲得していることを、点検・確認していること。</p>	<p>◎</p> <p>2011 年度入学生から JABEE 試行を実施しており、2014 年度は 66 名、2015 年度は 85 名、2016 年度は 77 名、2017 年度は 87 名、2018 年度は 80 名が修了した。JABEE 達成表により全員目標を達成していることを確認している。表 1, 2, 3 により、学修・教育到達目標と基準 1(2)の(a)～(i)との対応、目標とその評価方法及び評価基準、カリキュラム設計方針の説明がされている。これらによれば、目標と基準 1(2)の(a)～(i)それぞれごとに、専任教員が主たる科目を 2 つ以上担当し、かつ必修となっており、卒業要件を満たせば学修・教育到達目標が達成され、基準 1(2)の(a)～(i)の内容が身につけていることになる。学生個人々人については、それぞれの JABEE 達成表と単位取得状況を示す成績通知書が作成されており、これらによって確認できる。</p>		<p>表 1 学修・教育到達目標と基準 1(2)の(a)～(i)との対応</p> <p>表 2 学修・教育到達目標とその評価方法及び評価基準</p> <p>表 3 学修・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明</p> <p>添付資料 1-1-5 卒業要件と単位区分および専任担当区分</p> <p>添付資料 1-2-1 学修・教育到達目標の達成と基準 1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置</p> <p>添付資料 1-2-3 学修・教育到達目標と科目・履修条件の関係</p> <p>添付資料 1-2-4 能力と科目・履修条件の関係</p> <p>添付資料 2-2-3 JABEE 達成表例</p> <p>実地審査閲覧資料 3-4-1 JABEE 修了生リスト</p> <p>実地審査閲覧資料 3-4-3 2016 年度 4 年生の JABEE 達成表</p> <p>実地審査閲覧資料 3-4-3 2017 年度 4 年生の JABEE 達成表</p>
4	教育改善			

4.1	<p>【内部質保証システムの構成・実施と開示】</p> <p>プログラム又はプログラムが所属する高等教育機関は、基準 1～3 に則してプログラムの教育活動を点検する内部質保証を組織的に実施し、かつ、その実施内容をプログラムに関わる教員に開示していること。この内部質保証の仕組みには、社会の要求や学生の要望に配慮し、かつ、仕組み自体の機能を点検できる機能を含むこと。</p>	<p>◎ 学科における教育活動の点検は、JABEE 会議と学科会議において主に実施している。「教育活動案件ごとに、①学科教務担当、②学年担任、③教育プログラム実施担当、④教育改善検討担当、および⑤教員間ネットワークグループ（カリキュラムおよびシラバスの相互点検・改善を担当）にて点検・検討を行い、両会議にて審議をする仕組みとなっている。」</p> <p>工学部における教育活動点検の組織として、①教授会およびその下部委員会、②芝浦工業大学評価委員会および③工学部教育プログラム自己点検委員会が構成されている。具体的な点検活動の仕組みとして、①学生による授業アンケート、②学生による教育評価アンケート、③卒業生・企業、父母からの要望・意見等集約などがあり、これらは学事部で集約し、結果は各学科、教授会にフィードバックされる。</p> <p>社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みとして、①授業アンケート、②学生による教育評価アンケート、③就職先アンケート、④学科独自の卒業生アンケート、⑤学年担任制度、⑥キャリアサポート課によるアンケート、⑦ホームカミングデー、⑧父母懇談会があり、これらの仕組みを教育点検に含んでいる。また、合同企業説明会参加企業へアンケートの実施と、外部評価委員会（大学基準協会大学評価）による点検も行われている。</p> <p>当該プログラムに関わる教員は、教育点検の仕組みを構成する会議や委員会の議事録を学内端末等を用いて随時閲覧することができる。工学部において関係するのは教授会であり、学科では学科会議と JABEE 委員会議事録である。</p>	<p>教育活動の点検・改善活動において、土木工学科の分野ごとに形成される教員間ネットワークを構成している。これに従来よりある分野横断型で審議する教育プログラム実施担当および教育改善検討担当、更にプログラムに関わる全教員が参加する学科会議および JABEE 会議を併せ 3 つの段階とすることにより、より繊細かつ総括的、実効的な教育活動点検・改善システムを構築した。</p> <p>2018 年度から共通科目（数理科目・人文科目・英語科目）の教員が 5 名土木工学科に分属された。これにより土木工学分野以外の技術者として必要な共通科目の教育の強化だけでなく、学科会議や JABEE 会議などを通じて情報共有することにより、特に共通科目を受講することの多い学部低学年に対する教育活動の点検、改善の強化が可能となった。</p>	<p>添付資料 1-1-1 学科規則 添付資料 1-1-2 技術者像と反映させる仕組み 添付資料 1-1-9 土木工学科卒業生へのアンケート結果の評価 添付資料 1-1-14 土木工学科人事 添付資料 2-3-7 学科会議議事録 添付資料 2-3-8 JABEE 会議議事録 添付資料 2-3-9 教授会議事録 添付資料 2-3-10 工学部教授会規則 添付資料 2-3-11 工学部主任会議内規 添付資料 2-3-12 工学部教育プログラム自己点検委員会要領 添付資料 2-3-13 工学部教務委員会内規 添付資料 工学部 JABEE 推進委員会議事録 添付資料 工学部学科等個別自己点検書作成 添付資料 授業アンケート 添付資料 学生による教育評価アンケート 添付資料 合同企業説明会アンケート 大学点検・評価分科会 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/structure.html http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/index.html</p>
4.2	<p>【継続的改善】</p> <p>プログラムは、教育点検の結果に基づいて教育活動を継続的に改善する仕組みを持ち、それに関する活動を行っていること。</p>	<p>◎ プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みとして、工学部における①工学部教授会、②工学部学群学科主任・科目代表者会議、③工学部教育プログラム自己点検委員会、④工学部教務委員会、⑤大学評価委員会、および学科における⑥学科会議、⑦JABEE 会議と⑧教員間ネットワークがある。</p> <p>各会議や委員会から要請や案内が行われ、学科の活動として取り上げるほか、学科として自主的に点検・改善活動を行っている。内容は以下の項目が挙げられる。①FD・SD 活動、②カリキュラム改善、③教育手段改善、④ディプロマポリシー／カリキュラムポリシー／アドミッションポリシーの明確化、⑤新入生導入科目の改善、⑥学修状況の把握・分析、⑦JABEE 達成表による中間・修了時点での達成度評価、⑧ループリック試行による教育プログラム PDCA サイクル改善など。</p>	<p>工学部 JABEE 推進委員会が発展的に改組され工学部教育プログラム自己点検委員会となった。</p>	<p>添付資料 1-1-1 学科規則 添付資料 1-1-14 土木工学科人事 添付資料 2-3-10 工学部教授会規則 添付資料 2-3-11 工学部主任会議内規 添付資料 2-3-12 工学部規程 添付資料 2-3-13 工学部教務委員会内規 添付資料 4-2-1 工学部から各学科・科目へのフィードバックと対応について 添付資料 2-3-7 学科会議議事録 添付資料 2-3-8 JABEE 会議議事録 添付資料 2-3-9 教授会議事録 添付資料 4-2-2 工学部総括自己点検報告書（抜粋） 添付資料 4-2-4 最近の教育改善の状況 添付資料 4-2-5 学修・教育到達目標と基準 1 の能力など達成度表まとめ 添付資料 4-2-6 アクティブラーニング調査 添付資料 工学部の PDCA サイクル</p>